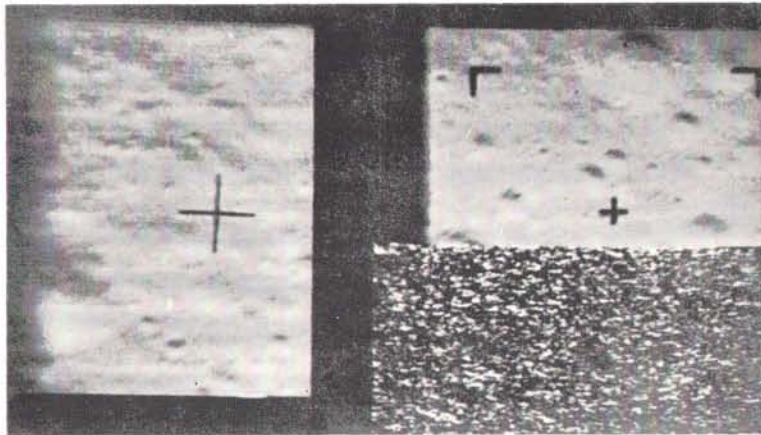


レンジャー7号による月面写真

①は火口ゲーリッケ。直径は70 kmで今までも良く観測がされていたが、一流の観測者といわれる H.P. Wilkins の観測（凸版）と比較しても、この写真ですら地上観測の分解能をとりこえていることがわかる。（上南，下北）

②F-aカメラで撮った最後の写真で、高度5 km でとったもの。黒矢印は編集者で入れたもので約1 km の距離を示す。左上に特に深い凹孔があり、内部に岩らしきものがみえる。この孔の直径は約200m。（上北，下南）

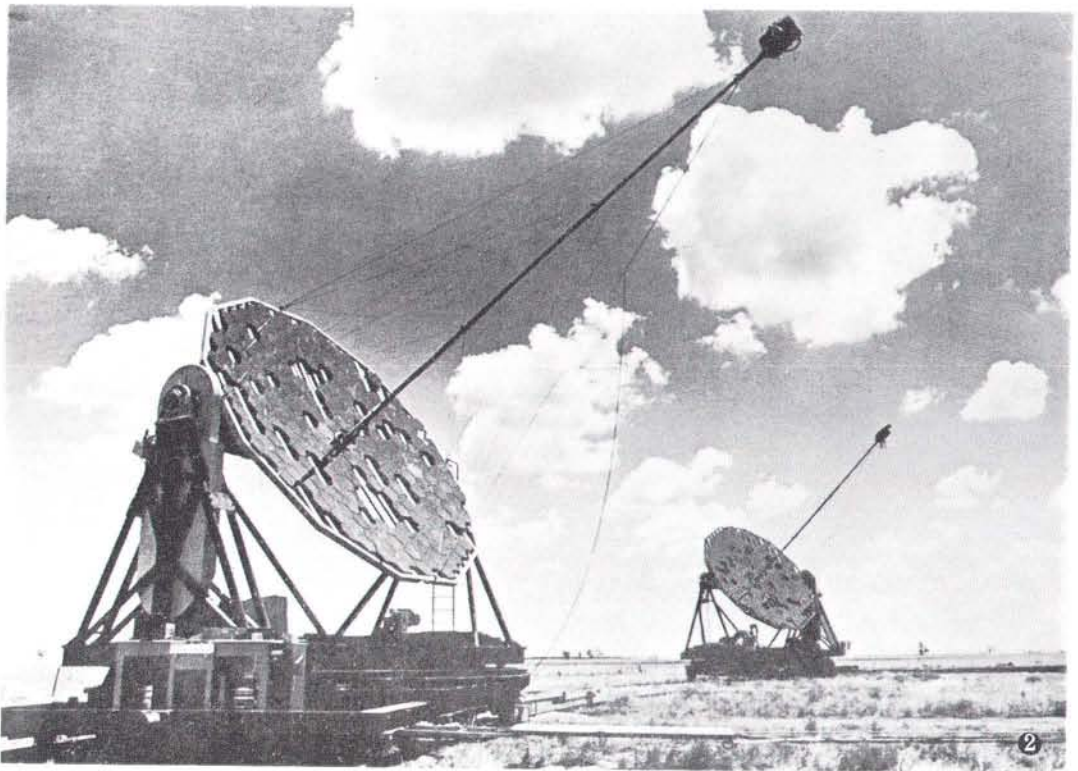
③P-カメラでとった最後の写真で、左は一辺約100 m の面積を示し、右は横30 m，縦18 m の部分を示す。これに写っている最小の孔は直径数10 cm くらいのものであろう。（左南，右北）

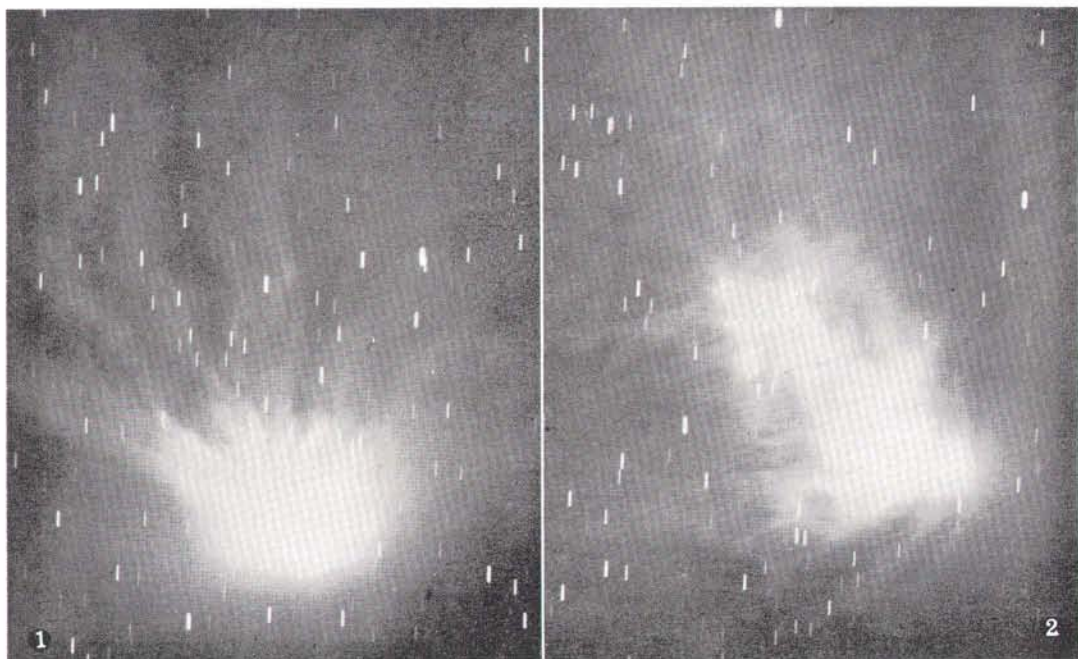


◇ローソップ日食記念会 1は今はなき早乙女博士をかこんで、7月4日学会館で催されたローソップ日食30周年記念会、前列左より田中務、早乙女夫妻、秋吉利雄氏御子息、後列左より上谷良吉、千田勘太郎、東中秀雄、柴田淑次、渡辺敏夫、竹田吉雄、藤田良雄、小穴純、中野三郎の諸氏（藤田氏の追悼記事参照）



◇ナラブライの干渉計 2はオーストラリアのナラブライに新設された、恒星用電波干渉計で、レール上を動かすことができ各々は直径7m、六角形のパラボラ252個よりなる。穴のあいているのは、取はずして磨き直しているもの。（本誌210頁雑報参照）





◇ 1961, 63年 の彗星

1, 2 はハマースン彗星 (1961 e) の頭部の変化で、左は 61 年 8 月 6 日に 22 分露出、右は 8 月 8 日 1220 分露出。US 海軍天文台撮影。この時の日心距離は 2.5 AU、地心距離は 1.6 AU。このころは頭部のみでなく、尾も著しく変化した。

3 は池谷彗星 (1963 a) の 1963 年 3 月 14 日にローエル天文台でバーナムが 13 インチ天体写真儀で写したもの。尾の長さは約 3 度あった。(本誌 206 頁富田氏論文参照)

